

平成23年12月の解説（府県天気予報）

【12月の天候状況】

上旬は全国的に数日の周期で天気が変わりました。冬型の気圧配置が長続きせず、この時期としては低気圧や前線の影響を受けることが多くなりました。3日には発達しながら本州付近を通過した低気圧により、北日本から西日本にかけて大雨となったところもありました。

中旬は中頃を中心に冬型の気圧配置が強まり、全国的に寒気の影響を大きく受けました。北日本から西日本にかけての日本海側では強い寒気の影響で雪の日が多く、大雪となったところが多くなりました。一方、太平洋側は気圧の谷が通過した旬のはじめを除いて晴れの日が多くなりましたが、強い寒気の影響で一部の平野部では雪が降り、積雪となったところもありました。沖縄・奄美は、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は旬のはじめは冬型の気圧配置となり、23日から24日にかけては、低気圧の通過に伴い全国的に曇りや雨となりました。その後は、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となりました。

月の後半を中心に断続的に強い寒気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけて月平均気温が低く、気温は上・中・下旬のいずれも低くなり、北日本の日本海側では降雪量が多くなりました。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨あるいは雪の日が多く、月間日照時間がかかなり少なくなりました。一方、北日本から西日本にかけての太平洋側では、月のはじめは曇りや雨の日が多くなりましたが、中頃以降は冬型の気圧配置が続き晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美は月を通して寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、月間日照時間がかかなり少なくなりました。

【12月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は84%で例年値^(注)より1ポイント高くなり、明後日予報は例年値と同じになりました。各地方の適中率では、明日予報は沖縄地方で8ポイント低くなりましたが、九州北部地方と九州南部地方で4~5ポイント高くなり、その他の地方では例年値程度のところが多くなりました。明後日予報は例年値程度か例年値より高い地方が多くなりましたが、近畿地方、四国地方及び九州南部地方で4~5ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値より小さい地方が多く、九州南部地方では0.6小さくなり、全国平均は例年値より0.2小さい1.3でした。最低気温の予報誤差は全国的に例年値より小さくなり、全国平均は例年値より0.2小さい1.4でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の天気予報の利用にあたって】

2月は1月と並んで1年で最も気温が低い月ですが、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進むと、強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、多雪地帯ではそれまでに降り積もった雪によりなだれが発生しやすくなります。一方、低気圧の通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がります。このため2月に低気圧が発達しながら日本海から北日本を通過する際には、大荒れの天気になるとともに、なだれや気温の急激な変化等に注意が必要です。各地の气象台が発表する気象情報や注意報、警報に留意して下さい。